

2022年6月29日 全8頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/6/29号）

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから足元の消費動向を先取り¹

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

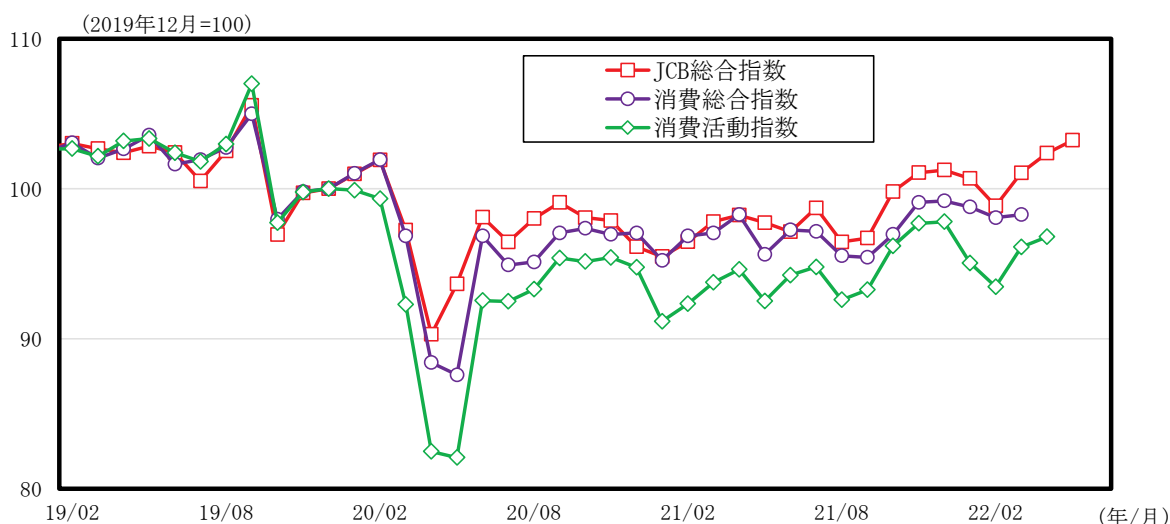
- 2022年5月の消費は4月から緩やかに回復したとみられる。財消費では、百貨店売上高が前月から小幅に回復した。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、アパレルは大型連休による外出機会の増加や気温上昇に伴い好調な結果となった。サービス消費では、移動需要の持ち直しから旅行や宿泊がおおむね良好であった。
- 6月の消費は回復基調が継続するとみている。月前半の消費について、百貨店主要2社において売上高は新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同期比でプラスに転じた。新幹線の輸送量も、東海を中心に増加が確認された。小売店・娯楽施設の人出を見ると、大型連休後の落ち込みから緩やかに回復している。こうした動きを反映して、外食・旅行・娯楽関連消費を中心としたサービス消費も持ち直したとみられる。

¹株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」の利用開始に伴い、前回公表分から一部図表を変更。

＜消費全体の動き＞

- ◆【JCB 総合指数】5月のJCB総合指数²（大和総研による季節調整値）は前月比+0.8%であった。財・サービス別に見ると、財は前月から小幅に低下した一方、サービスは前月から上昇し、3カ月連続の上昇となった。

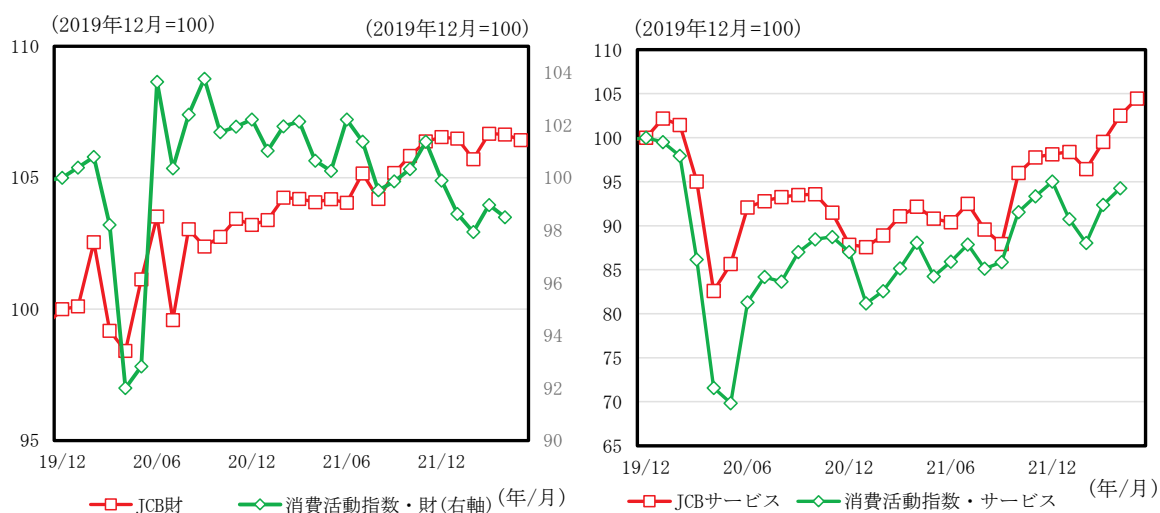
図表1：消費総合指数・消費活動指数・JCB総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

図表2：財・サービス別に見た消費の動き



(注1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(注2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

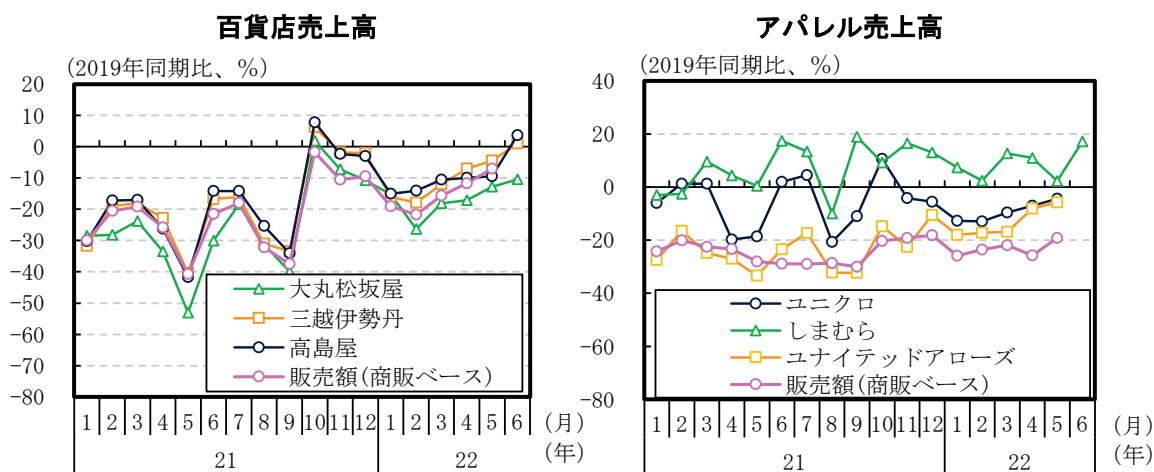
(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

² JCBグループ会員の中からランダムに抽出された約1,000万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

＜小売関連＞

- ◆【百貨店】 大手 3 社の 5 月の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年同月比で約 1~2 割減。月前半は外出機会の増加から売上高が伸びたものの、その後は伸び悩む。6 月前半は三越と高島屋が 2019 年同期比でプラスに転じた。
- ◆【アパレル】 5 月のアパレル既存店売上高は 2019 年同期比で主要 2 社が 4 月から上昇。月上旬の大型連休を受けて外出機会が増加。気温上昇に伴い夏物の売上も好調。6 月は引き続き外出需要が好調であり、しまむらの伸び率が大きい。

図表 3：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2022年6月は14日まで。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

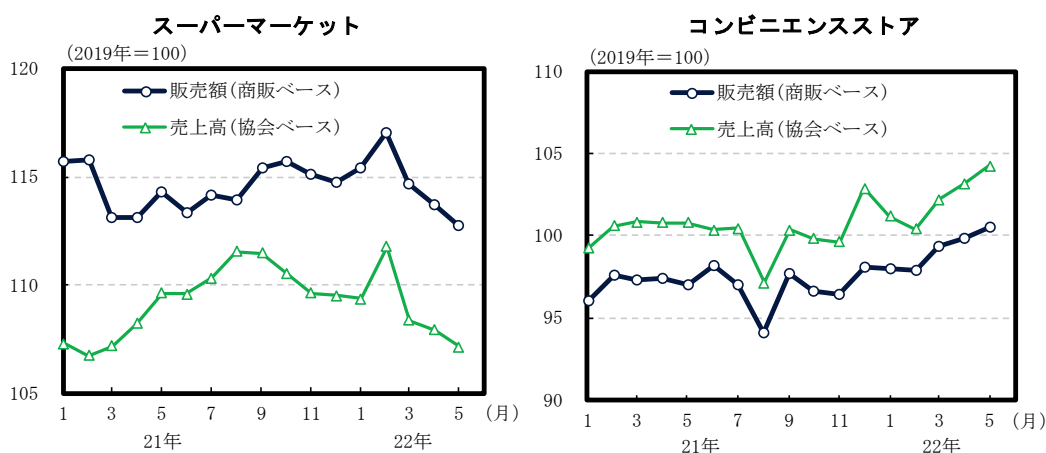
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「衣服・身の回り品卸売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 5 月の売上高は前月比▲0.7% (大和総研による季節調整値)。一般食品が小幅に増加するも、総菜や日配食品などが減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 5 月の売上高は前月比+1.0% (大和総研による季節調整値)。日配食品が全体を押し上げ。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

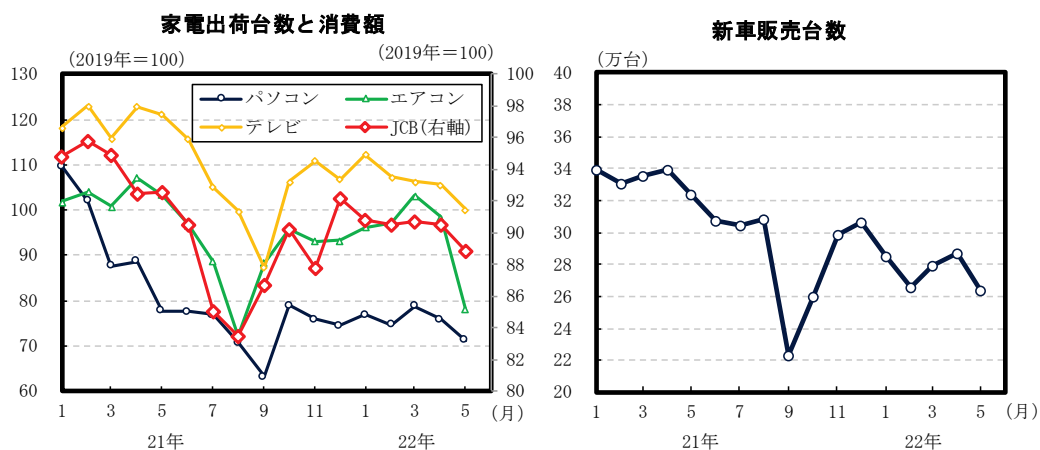


(注) 売上高(協会ベース)は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】 5月の出荷台数はパソコンが前月比▲6.2%、エアコンが同▲20.8%、テレビが同▲5.3%（いずれも大和総研による季節調整値）。
- ◆【自動車】 5月の新車販売台数は前月比▲8.0%（大和総研による季節調整値）と3カ月ぶりに減少に転じた。上海でのロックダウン（都市封鎖）による部材調達難を受けて各社で減産が続いたことが影響したとみられる。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



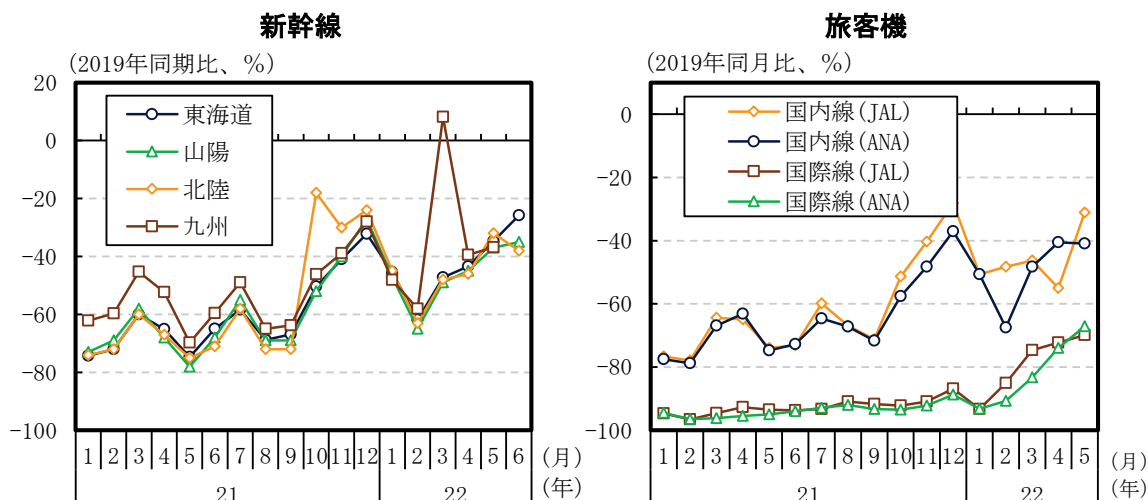
(注) 大和総研による季節調整値。

(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】 6月前半の輸送量は2019年同期比で2~4割減。5月に比べると、伸び率は東海ではマイナス幅が縮小した一方、その他の地域では伸び悩んだ。
- ◆【旅客機】 5月の国内線輸送量は2019年同月比で約3~4割減。国際線は同7割減程度と、低水準ながらも回復傾向が続いている。7月以降は、北米・アジア方面の渡航需要拡大を受けて、航空各社は国際線の運航率を引き上げる予定。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況

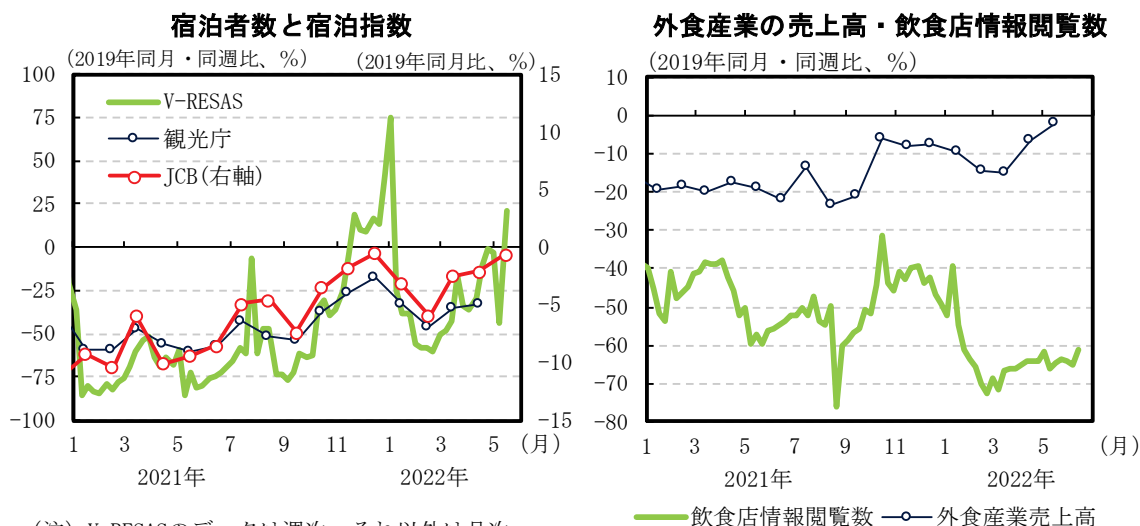


(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。2022年6月の東海は15日まで、山陽・北陸は7日まで、九州は5月分のデータ。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

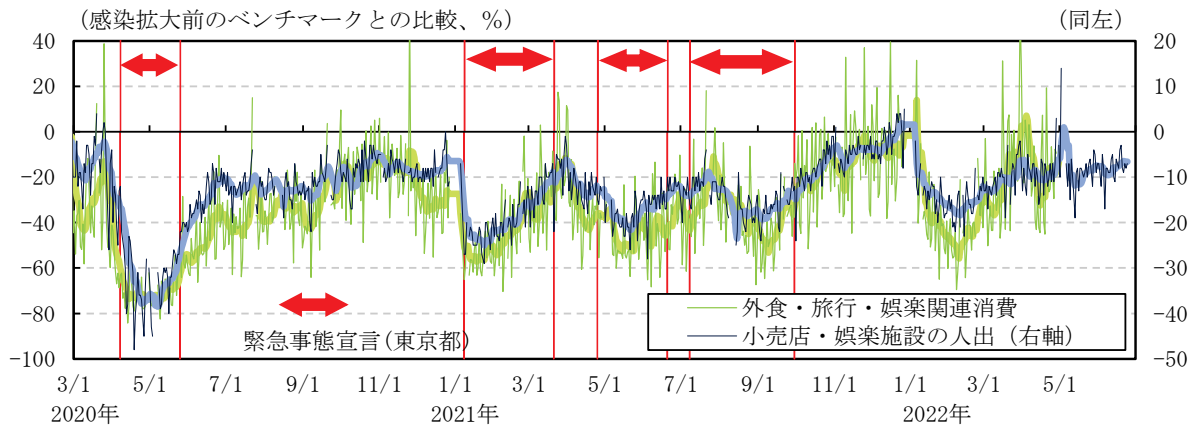
- ◆【宿泊】 4月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比▲33%と、3月からマイナス幅は横ばい。感染状況は改善するも、需要は足踏みした。V-RESAS（宿泊開始日ベース）やJCB消費NOW（宿泊指数）（大和総研による季節調整値）で見ると、5月上旬も回復傾向が続いている。
- ◆【外食】 5月の外食産業の売上高は2019年同月比▲2%と、前月からマイナス幅が縮小した。6月上旬の飲食店情報閲覧数は前月から小幅に回復した。

図表7：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



<参考：人出・高速道路交通量>

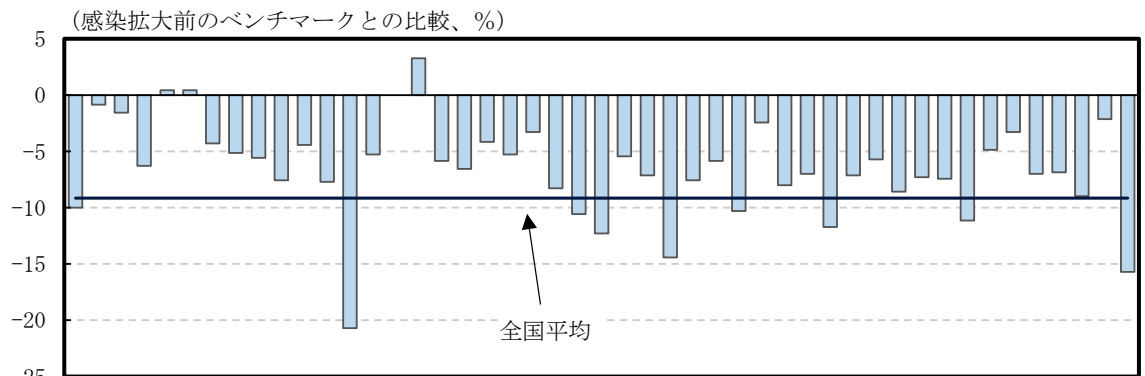
図表 8-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 6/24）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 8-2：小売店・娯楽施設の人出（6/18～6/24 平均、都道府県別）

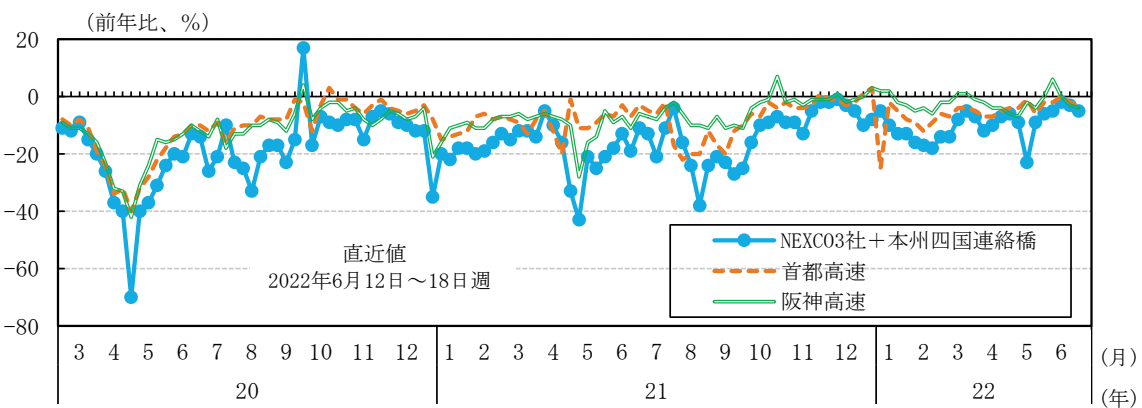


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児繩
道 川 山 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 9：高速道路交通量

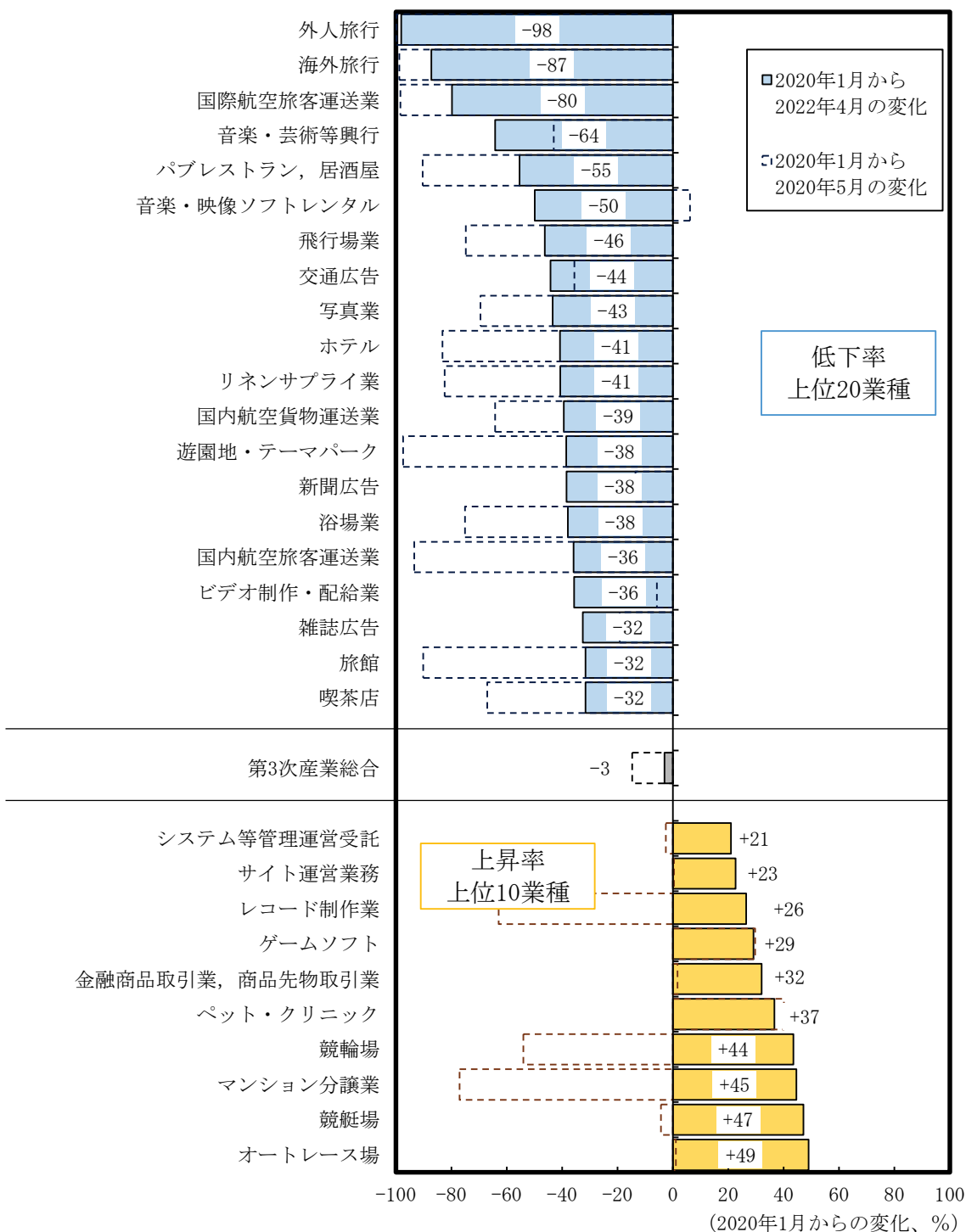


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

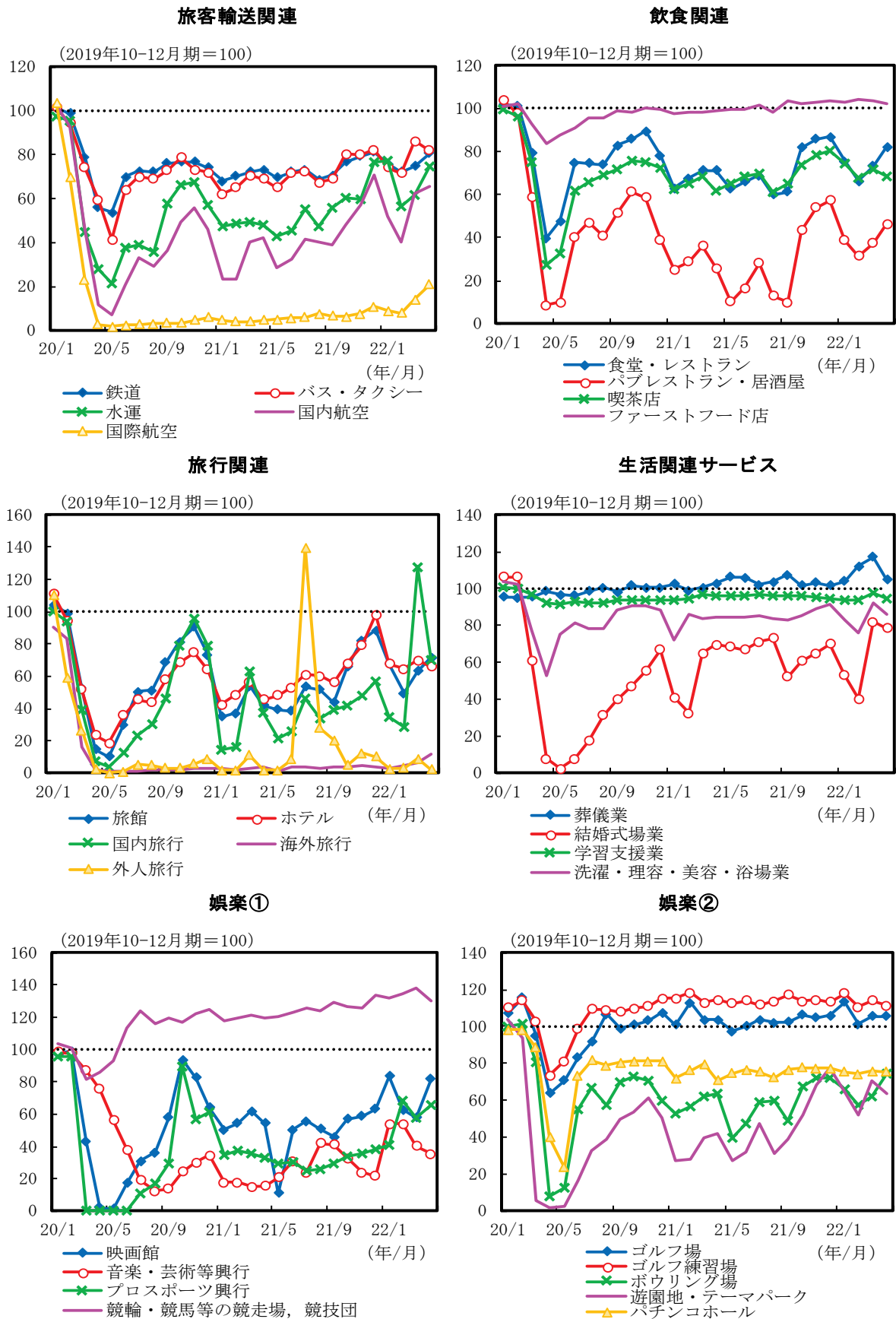
図表 10-1：第3次産業活動指数（2022年4月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年4月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 10-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成